

## エクアドルで県の周年祭を祝う

農業開発プロジェクトを実施しているロス・リオス県の、県制の施行 154 周年を祝う式典に参加する機会があった。式典前にパレードがあり、職域、小中学校、高校、農協、生産者団体ごとに参加して町を半日かけて練り歩く。普段からマーチングに傾注する学校が多く、凝った衣装を身に着け、演奏、行進も見事に揃えて練習の成果を華々しく表現する。ダンスを取り入れるグループもあり、モダンもあればポルカもある。生徒の家族もこぞって楽しみつつ準備するようで、子供たちの晴れ姿に沿道で喝さいを送る。押すな押すなの立ち見客相手にバルーンアートを披露するピエロもいれば、アイスクリームやかき氷売りも出る。県の主催だが、県民がさまざまな形で参加するお祭りになっている。



写真:パレードの様子 エクアドル パバオジョ市 2014 年

式典には副大統領も参列し、県内各地からの農家団体の数千人が会場を埋め尽くした。一年間の県行政の実績をまとめた冊子やパンフレットが配られ、県民の暮らしが良くなったことがアピールされた。そういった政治的な意味もあるようだが、地域のアイデンティティを確認し、住民の結びつきを強めているようにも感じられる。  
(末光健志)

“アールディーアイ通信 No. 74/2014”から

## 男ばかりの研修員とコスタリカへ

JICA 筑波国際センターで実施している「小規模農民支援有機農業技術普及手法」コースは、日本での技術研修 3 カ月とコスタリカでの補完研修 3 週間から成る。

コスタリカの視察先で、有機栽培されたブルーベリー、ラズベリー、ウチュバなどを試食する機会があった。ウチュバはコスタリカで流行っていて、日本ではフルーツほおずきという名前で紹介されている。サクランボ程の丸くて黄色い実が袋に入っている。甘酸っぱくて美味しいので、皆でバクバク食べていると、視察先の農家のおじさんが「あんまり食べすぎるなよ！むちゃくちゃ効く精力剤だからな」と。しかしすでに遅かった。20 個も食べてしまった研修員がいたのだ。

別の日には、筍などの生命力の強い植物を糖蜜の中で発酵させた植物活性液の説明を受けた。ある研修員が散布頻度について「一日に何回？」と聞いた。すると「何回でも。俺を見ればわかるだろう！」とおじさんがガッツポーズをした。顔を真っ赤にした通訳の女性と涙を流して大笑いする研修員達。日本での研修中は、慣れない環境で不安そうにしている研修員もいたが、コスタリカでは終始リラックスした雰囲気、まるで男子校の修学旅行のような旅であった。  
(宮内崇博)



“アールディーアイ通信 No. 73/2014”から

写真:パックに入っているものがウチュバの実 コスタリカ サンホセ 2014 年

## アンデス高原の冬

ボリビア国ポトシ県南西部の大部分は、アルティプラノといわれる高地高原に属する。アルティプラノとは、アンデス山脈中部の山間にある標高 4,000 メートル以上の大平原のことである。南半球のポトシ県は6月から8月まで真冬の時期を迎える。標高が高い地域に特徴的な気候だが、日中は 15°C 以上になるのに日没後は気温が下がり、氷点下 15°C に達することもある。年間を通して降水量が少ない(年間降水量 150~400 ミリ)が、この時期は特に乾燥が激しく、さらに月に数回、南からの強風(寒波)に見舞われる。植生の乏しいアルティプラノは砂地が多く、強風により砂が巻き上げられ砂嵐が2、3日にわたり吹き荒れる。このような冬の間の屋外作業は厳しく、家にじっとして強風をやり過ごす人が多い。



写真: 集会の休憩時、南からの寒風を避けて日向ぼっこ

ボリビア ポトシ県 2014 年

農家のおばさんがたに会って話す機会が多いが、砂嵐と寒風の時期でも、小さい子供を抱えながら畑を耕し、リヤマの世話をし、ジャガイモを凍結乾燥させる保存食のチューニヨを作る姿を目にすると、たくましさに驚き、心を動かされる。特産品であるソラマメやジャガイモを少しでも多く収穫したい、そして家族みんなが食べられ、健康で働けるのがうれしいと笑顔で話す。(高橋貞雄)

“アールディーアイ通信 No. 72/2014”から

## シャパという名のトランスポーター

バン型の乗合自動車が、モザンビークのシクエ郡内と近隣州を結び、人と物資の輸送を担っている。組合の組合長と会計係に会って、ここ数年目立つサービスの充実振りについて訊いた。

路線は、6時間かかる北隣り州の州都までと、南へおよそ3時間の首都マプトへの2つである。車種は15座席のトヨタハイエースが多い。事故に備えて保険に加入するほどだからサービスは秩序立っている。乗客が殺到することも、客をぎゅうぎゅう詰めに乗せる様子もない。満席になったら出発する。3年前にメインストリートの西端付近に専用ターミナルを完成させた。早朝から夜9時まで毎日営業している。車内への持ち込みは手荷物だけで、農産物、食料、建設資材などの荷は牽引されるトレーラーに積む。物資輸送の比重が高まっているらしく、仕入れ人専用サービスというのがある。衣類、靴、CD、腕時計、携帯電話などを、インド人、中国人そしてナイジェリア人商人から大量に仕入れに首都まで往復する。日曜を除き毎朝4時半に始発が出る。



農村部の町で見る、人と物資輸送の隆盛振りに、ちょっとした興奮を伴って胸が躍る。(濱中透)

アールディーアイ通信 No. 71/2014”から

写真: 出発前のマプト行きシャパ モザンビーク シクエ 2013 年

## ボツワナのトラディショナルダンス

南アフリカの文化圏にあるボツワナの人々の歌と踊りのセンスはすごい。手拍子と歌がそれぞれ異なるリズムで重なる独特な音楽に、踊りを組み合わせたトラディショナルダンスは見応えがある。学校の部活動ではこの伝統的な音楽と踊りを継承していて、祭りやイベントがあると必ずトラディショナルダンスを見ることができる。グループによって男女や人数の構成が違うが、ポジションはだいたい決まっていて、数人ずつが交代で中心に出てきて踊る。後ろの大勢が、歌の拍子とは異なる手拍子を細かく、速く打ち、その激しいリズムに聞く者の動悸を速める迫力がある。たくさんの野生のカイコのまゆに小石や砂を入れて紐を通して足首に巻きつけ、強いステッ



写真:ボツワナ ハバロネ 2001年

プで足踏みをする。マラカスのようなシャカシャカとした音を出して、まるで楽器のようだ。揃った足音がよく響き、シャカシャカ音がいつまでも耳に残る。西アフリカでは太鼓を素手で叩く音楽があるが、ここはひたすら手拍子、足拍子と歌である。その時々によって意味やストーリーがあるようで、彼らの全身を使った歌と踊りの表現力は素晴らしいと感じた。(稲森岳央)

“アールディーアイ通信 No. 70/2014”から

---

## リンポポ線の貨物列車

モザンビークの鉄道は主要3港と内陸の隣接国を結ぶ3線区からなり、南部のマプト線区にはマプト港からスワジランド、南アフリカ、ジンバブエへ延びる3路線がある。ジンバブエ国境の町までの534キロメートルを結ぶリンポポ線が、この国最大の灌漑地区のあるガザ州のショクエの町を通る。

夏の日差しが厳しい昼下がり、ショクエ駅にマプトへ向かう貨物列車が停車していた。貨車を数えると31両あり、上部がシートで覆われた貨車の側面に「Sugar」の札が貼られていた。先頭の機関車から作業姿勢の運転士が降りてきて、ジンバブエからマプトまでは12時間以上の運転で、ここから終点に到着する頃は夜遅くなるだろうと、長時間の運転にも疲れた様子を見せず、気さくに話してくれた。ジンバブエからは砂糖やトウモロコシの積



写真:後方に駅 モザンビーク ショクエ 2012年

み荷が多いらしい。貨物列車は夜の運行もあるらしく、夜中にホテルで汽笛が聞こえることがよくあった。近くのバーからの賑やかな音楽と喧騒がおさまり、やっと静かに眠りについたところでピーッと1回長い汽笛が響く。たまに3回続くと、何か線路に侵入したかなと想像しながら、いつの間にか夢の中だった。(田中占領) “アールディーアイ通信 No69/2014”から